



「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内

TEL :043-227-8557



第2回 連続セミナー

「構造化による支援と実践」

ASDの理解から支援へ～自己効力感・自尊感情を育む～

横浜市東部地域療育センター 安倍 陽子 氏

今回は、令和3年度まで千葉TEACCHプログラム研究会のスーパーバイザーとして御支援いただいた安倍先生からASD(自閉スペクトラム症)の基本的な理解と構造化についてお話いただきました。

○ 自閉症のある方々の自己肯定感を育むために

ASDのある方々と私たちは、脳の機能や情報の取り込み方に違いがあるが、それは良い悪いではなく文化の違いに近いものである。見方や感じ方、理解の仕方(学習スタイル)が異なるということは、学習の仕方、活動の取り組み方が違うことであり、一人一人の学習スタイルに合わせた個別化された支援が必要である。そのことがASDのある方々の自信と自立につながる。

○ 学び方の違い(学習スタイル)は、弱みであると共に強みでもある

①視覚的に考える(百聞は一見にしかず)②中枢性統合の弱さ(木を見て森を見ず)③独特の注意の向け方(絞り込んだ光)④実行機能の問題(物事の段取り、順序立て)⑤感覚刺激の偏り(敏感/鈍感)⑥心の理論の弱さ(人の気持ちを感じ、読む力)という違いがあり、この違いがあるからこそ、刺激が多くわかりにくい私たちの環境をASDのある方々にとって意味のある形に整理(具体的、視覚的、明瞭に)していくことが重要である。そのことが、ASDの強みを活かし、弱みを補うことにつながる。

○ 個別化された指導・支援が、将来の自立的で豊かな生活につながる

「何を教えるか(指導領域)」と「どのように教えるのか(枠組み)」の2面から考える必要がある。

「指導領域」は「生活技能や学習技能、コミュニケーション、社会性」等と幅広い領域から発達レベルに合わせて必要な領域を整理していく。その中で、特に「日常生活技能」は将来、自立するために必要であり就労にもつながる大切なスキルであるので幼少期から取り組むこと、「余暇活動」や「コーピングスキル(ストレスへの対処)」も学校を卒業し社会に出るまでに使えるようにすることが大切である。

「枠組み」としての「構造化」は、私たちの環境を、ASDのある方々にとって予測可能なようにわかりやすくすることである。一人一人の学習スタイルや興味関心、理解力等の評価に基づき「物理的整理統合(場所)、スケジュール(時間)、ワークシステム(活動)、マテリアルストラクチャーと視覚的支援(やり方)」の視点で構造化し、成長や状況に合わせて、さらに再構造化をして本人に合わせていくことが重要である。

安倍先生には、たくさんの写真や動画を示していただきながら、ASDのある方々の学習スタイルや構造化のアイディアについてわかりやすく教えていただきました。加えて、構造化の支援を受けてきたお子さんが、自宅に遊びに来た友達に構造化のアイディアについて「これはぼくを助けてくれるものだ」と話していたエピソードや、支援学校卒業後に構造化のアイディアを自ら使いながら特例子会社で生き生きと働いている映像を御紹介いただき、適切な理解と支援はASDのある方々の自己効力感・自尊感情を育むことを雄弁に物語っていると実感し心がふわっと温くなりました。

・・・・・・・・・・ **安倍先生からの御紹介** ・・・・・・・・・・
 タイムタイマーやスケジュール作成グッズがユニバーサルデザインになりました。



【時っ感(じっかん)タイマー】

タイムタイマーと同じような機能があり、時計が読めなくとも「あと〇分」がわかるようになっています。「色も青だけでなくピンクや赤もあり多様性が尊重されている」と安倍先生が話されていました。(sonic)

【できたよマグネット】

活動が終わって裏返すと「できた」のニコニコマークがでできます。活動が書き込める白いシートもついています。「子どものやりたいを応援する」のコピーも秀逸！（学研）

【お支度マグネット】

「することバージョン」と「持ち物バージョン」があります。時刻や文言を書き込めるシートもついており、使用する方に応じてカスタマイズができます。(100均)

令和4年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第3回連続セミナー 講師紹介

演 題：「構造化を用いた学習支援」

講 師： 西田 恵理子 氏 東京都王子特別支援学校 教員

栃木県出身、日本体育大学社会体育学科卒業。中学校・高等学校教諭一種免許（保健体育）をもち、東京都教員17年目。現在は、指導教諭として、東京都公立学校の「授業力」向上に向けた取り組みを実践し、御活躍されています。

※オンデマンド動画配信 配信期間：9月16日（金）～10月2日（日）

令和4年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第4回連続セミナーについて

日 時： 令和4年10月8日（土）14：00～16：00（13：30受付）

内 容：「成人期の支援：入所施設における構造化の取組（課題）」

講 師： 中野 伊知郎 氏 （社会福祉法人侑愛会 星ヶ丘寮 園長）

会 場： ZOOM（リアルタイム配信）

※オンデマンド動画配信 配信期間：10月14日（金）～10月30日（日）

申込締切日：令和4年10月6日（木）

【編集後記】今回の講演は対面とオンデマンドというハイブリッドでした。コロナ感染症の感染拡大が心配されるようになって2年以上経ち、相変わらず予断を許さない状況ではあるものの、ICTの利活用が進んだことで選択できる幅が広がり自分の状況に合った方法を選べるようになったとも感じています。（第2回セミナーは腰痛のため残念ながら対面で聴くことができませんでしたが、自宅で安静にしながらオンデマンドで拝聴しました）安倍先生のお話を伺い、改めて基本に立ち返ることの重要性や世の中は着実にユニバーサルデザインが増えていること、個別化した構造化を用いて指導・支援を続けることが本人の自立や自己肯定感につながることを実感しました。2学期、学校の子どもたちに会えること、先生方と一緒に指導・支援を考えていくことがとても楽しみになりました。（金坂）